

会の久保顧問も委員を務めておられます。

本人にとって適切な時に必要な範囲・期間で利用できるようにすべき、三類型を一元化すべき、終身ではなく有期の制度として見直しの機会を付与すべき、本人が必要とする身上保護や意思決定支援に応じ後見人を円滑に交代できるようにすべき、といった制度改革の方向性に関する議論が部会で活発に行われていて、山野目部会長は「終わらない後見を終わらせる課題にチャレンジしていく」と発言されています。参加者との質疑応答では、いつまでに改正?という切羽詰まった質問に対して、「空前の大改革が今年度から始まったのです。急ぎすぎず、ゆっくりしすぎず、失敗は許されないので丁寧に進めます」と答えられました。



#### 【第4分科会/シンポジウムにて】

次のシンポジウムでは日本発達障害ネットワークの大塚晃氏がコーディネーターを務められ、初めに弁護士関哉直人氏が「育成会として今後運動していくべきことは」について話されました。制度の変わり目の今、新しい制度を知って課題を整理する勉強会を開催し、本人にとって難解な成年後見制度にもっと本人の意思決定が尊重される仕組み作りを育成会としても取り組んでほしい、と述べられました。

次に埼玉県育成会高野淑恵氏が、身上保護に重きを置いた「法人後見」を平成20年から行ってきた思いを発表されました。埼玉県育成会の公益事業として、家族もいない、預貯金も無い会員以外の人をも支援しているとのこと。 「知的に障がいのある人たちが幸せな人生を全うする為の活動、それこそが育成会が拠って立つところの意義」と考え、一人一人に寄り添う支援と後見を続けていきたい、そしてこの度の改正に医療制度との連携を強く望むと結ばれました。

最後は秋田市育成会の小林顕氏のご自身の勤める(社医)正和会の多大な支援を受け、令和6年6月に法人後見を行う「NPO法人トラストつなぐ」を立ち上げた経緯と意気込みを熱く語られました。

会場からは成年後見制度の見直しはいつ決まるのか

の質問が最後まで続き、特に初期の頃から利用しているご家族の方にとって年齢的に急を要する願いであることがひしひしと伝わった第4分科会でした。

#### 全国障害者スポーツ大会が開催されました

理事長 長谷川 美智代

10月26日から28日までの3日間、SAGA2024全国障害者スポーツ大会が開催されました。佐賀県では、1976年に前身である全国身体障害者スポーツ大会が開かれて以来、48年ぶりの開催となります。「新しい大会へ すべての人にスポーツのチカラを」を大会メッセージとした今大会では、スポーツを「する」だけでなく、「観る」「支える」といった様々なスタイルで、スポーツに関わる人すべての人が主役となり楽しめる大会をめざしています。

26日に佐賀市のSAGAスタジアムで行われた開会式は、あいにくの雨となり、役員、選手団は、レインコートを着ての行進となりましたが、今回は、従来の整列して行進する形から、自由なパレード形式での入場となり、会場では、約1,200名の式典パフォーマーと大勢の観客の皆さんが、音楽に合わせた手拍子で迎えてくれました。全国の選手団の入場が終わり、佐賀県知事の開会宣言、秋篠宮さまからのお言葉の頃には、雨も上がり、日差しもさしてきました。心配された天気も雨が降ったのは開会式の時だけで、選手の競技期間中は、天気にも恵まれました。

大阪市の選手の皆さんそれぞれが、金メダルや記録の更新などを目標に掲げ、互いに励まし合いながら、全力でプレーする姿には、いつも心を打たれます。大会新記録も9種目で樹立し、好成績を収めることができた大阪市選手団の結果は、以下の通りです。

#### ○個人競技

金メダル36個・銀メダル23個・銅メダル11個

#### ○団体競技

- ◆バレーボール(聴覚・女子)優勝(金メダル)
- ◆バレーボール(聴覚・男子)準優勝(銀メダル)
- ◆バスケットボール(知的・男子)4位

3日間の熱戦を終えた28日には、最新の演出設備があるSAGAアリーナ(佐賀市)で閉会式が開催されました。同大会の式典がアリーナで行われるのは初めてで、オープニングでは、映像、音、光を駆使した演出で、熱戦を繰り広げた選手たちの感動のシーンを振り返りました。そして、フィナーレは、佐賀県出身の歌手、鷺尾伶菜さんが大会イメージソングを披露し、会場の盛り上がりとともにSAGA2024全障スポ